

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する 意識の性別・年代差について

山下 玲子

2016年2月8日、高市早苗総務大臣が衆議院予算委員会内で「政治的に公平であること」と定めた放送法4条1項2号違反を繰り返した場合、電波法76条1項に基づき、電波停止を命じる可能性に言及したことは、非常に衝撃的な出来事であった。これを受け、日本ジャーナリスト会議は同年2月13日に大臣辞任を求める声明を発表、また、民放労連もこの一連の「停波発言」の撤回を求める声明を発表した（Economic News「総務大臣辞任を 日本ジャーナリスト会議が声明」2016年2月13日）。この発言に対する抗議はジャーナリスト以外にも広がり、東京弁護士会が2月16日に「高市早苗総務大臣の『放送法違反による伝播停止命令を是認する発言』に抗議し、その撤回を求めると共に、政府に対し報道・表現の自由への干渉・介入を行わないよう求める会長声明」を発表するなどその波紋は広がった。そして、2月18日の毎日新聞東京夕刊が「特集ワイド 高市氏の『停波』発言 ホントの怖さ」という特集記事を掲載、この発言に対する各方面の意見をまとめて発表している。

このように、放送界や法曹界においては、この発言は重く受け止められ、ゆゆしき事態として取り上げられていた一方で、テレビの視聴者である一般市民におけるこの発言への関心は、さほど高くなかったのではないかと思われる。実際、ジャーナリストの江川紹子氏も上記の毎日新聞の記事内で「一般の人々の関心が決して高くないこと」に不安を感じている、と述べている。そして、安倍政権がマスコミ不信という世論を利用し、自分達の権限を拡大しようとしているのではないかと懸念を示している。また同記事において、立教大学教授の砂川浩慶准教授も、この問題を単に「高市&安倍 VS テレビ局」の対立に矮小化してしまい、メディアが規制を受けることが間接的に国民の言論統制につながるということから目を逸らせているのではないかと指摘している。

これらの声明や記事から、この高市発言に対する反応は、政界、放送界や法曹界、そして一般市民の間で非常に温度差があったことがみてとれる。しかしながら、何を持って、「報道が政治的に公平・公正」であるといえるのかは、非常に難しい問題である。「政治的に公平・公正」とはどういうことなのか、誰のための公平・公正なのか、それぞれの立場において、答えはさまざまであることが予想される。また、政治的に公平や公正であることが、自身にとってどれほど重要であるかという認識もまた、さまざまであると考えられる。

本研究は、この発言がなされてすぐの2016年3月初旬に行った調査について、主に性差

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

と年代差の観点から考察を行ったものである。一般市民が放送をどれだけ理解し、報道にどのようなものを求めているのかを明らかにすることを第一の目的とし、一般市民と想定されるインターネットモニターに対し、放送法に関する知識と報道に求めることについて、質問を行った。また、近年、テレビおよびその他の情報メディアへの接触状況が年代、性別により異なるという指摘がさまざまな調査から明らかとなっている（cf. 日本新聞協会，2015；総務省，2016；保高，木村，2016）。テレビニュースへの接触状況も異なると考えられる人々（舟越，星・塚本・村田，2015）が、放送法に関する知識をそれぞれの程度持ち得ているのか、テレビニュースの相対的な重要性が異なるとされる人々にとり、テレビニュースの公平・公正とはどのようなものと考えられているのか、明らかにすることを試みた。

〈調査方法〉

○調査対象者

調査会社マクロミルのモニター 1240 名（男女とも 15-19 歳，20-39 歳，40-59 歳，60 歳以上各 155 名ずつ。日本国内のエリア問わず。放送業，広告業の人を除く）

○実施年月日および方法

2016 年 3 月 9 日（水）。マクロミル社を通じ，モニターを募集して Web 上で実施した。

○質問項目

- (1) 放送法の知識に関する質問 8 問（1. まったく知らない～よく知っている，の 4 件法）
- (2) テレビの報道の公平性，あるべき姿についての態度に関する質問（1. まったくそう思わない～4. 強くそう思う，の 4 件法）
- (3) 現在のテレビ報道についての意見に関する質問 12 問（1. まったくそう思わない～4. 強くそう思う，の 4 件法）
- (4) 対象者のニュース情報源としてのメディア利用の程度を問う質問（1. 全く利用していない～4. よく利用する，の 4 件法）

〈結果〉

(1) 放送法の知識に関する性別・年代差

性別・年代別に分けて，クロス集計および χ^2 検定を実施したところ，8 問全てにおいて偏りが見られた（表 1-1～1-8 参照）。また，残差分析を行ったところ，すべての項目において年代の高い方が，自身が放送法に関する知識があると回答していた。また，男性の方が女性よりも，放送法に関する知識があると回答していた。

表 1-1 地上デジタル放送や BS 放送には、国の免許が必要であるについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				
	まったく知らない	あまり知らない	ある程度知っている	よく知っている	合計
女性/15-19才	104 6.9	37 -0.8	13 -4.8	1 -3.7	155
女性/20-39才	101 6.4	39 -0.4	12 -5	3 -3.1	155
女性/40-59才	80 2.7	51 1.9	20 -3.3	4 -2.8	155
女性/60才以上	39 -4.4	64 4.4	41 0.9	11 -0.7	155
男性/15-19才	83 3.3	40 -0.2	20 -3.3	12 -0.3	155
男性/20-39才	61 -0.6	38 -0.6	42 1.1	14 0.3	155
男性/40-59才	32 -5.6	37 -0.8	60 4.8	26 4.0	155
男性/60才以上	14 -8.8	23 -3.5	84 9.6	34 6.4	155
合計	514	329	292	105	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=341.32, p<.001$

表 1-2 NHK の財源はほとんどが受信料であるについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				
	まったく知らない	あまり知らない	ある程度知っている	よく知っている	合計
女性/15-19才	32 4.6	41 3.4	49 -3.8	33 -1.7	155
女性/20-39才	24 2.3	36 2.3	67 -0.7	28 -2.7	155
女性/40-59才	9 -1.9	23 -0.7	93 3.7	30 -2.3	155
女性/60才以上	1 -4.2	17 -2.1	86 2.5	51 1.8	155
男性/15-19才	30 4.0	32 1.3	58 -2.3	35 -1.3	155
男性/20-39才	23 2.0	29 0.7	70 -0.2	33 -1.7	155
男性/40-59才	6 -2.8	22 -0.9	73 0.3	54 2.4	155
男性/60才以上	2 -3.9	9 -3.9	74 0.5	70 5.5	155
合計	127	209	570	334	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=157.65, p<.001$

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

表 1-3 NHK の会長は国会が同意した委員によって構成される経営委員会が決めるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったく知らない	あまり知らない	ある程度知っている	よく知っている	合計
女性/15-19才	99 8.0	37 -1.1	14 -5.5	5 -3.0	155
女性/20-39才	94 7.1	41 -0.3	18 -4.7	2 -3.9	155
女性/40-59才	53 -0.2	56 2.6	41 -0.3	5 -3.0	155
女性/60才以上	26 -5.1	41 -0.3	67 4.7	21 1.5	155
男性/15-19才	74 3.5	45 0.5	26 -3.2	10 -1.6	155
男性/20-39才	56 0.3	42 -0.1	40 -0.5	17 0.4	155
男性/40-59才	26 -5.1	50 1.4	58 3.0	21 1.5	155
男性/60才以上	7 -8.5	28 -2.8	76 6.4	44 8.1	155
合計	435	340	340	125	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=324.81, p<.001$

表 1-4 NHK の予算は、国会の承認が必要であるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったく知らない	あまり知らない	ある程度知っている	よく知っている	合計
女性/15-19才	99 8.1	36 -0.9	16 -4.5	4 -4.3	155
女性/20-39才	97 7.7	36 -0.9	19 -3.9	3 -4.6	155
女性/40-59才	54 0.0	53 2.4	41 0.4	7 -3.6	155
女性/60才以上	22 -5.8	44 0.7	57 3.6	32 2.6	155
男性/15-19才	80 4.6	45 0.9	22 -3.3	8 -3.3	155
男性/20-39才	54 0.0	40 -0.1	44 1.0	17 -1.1	155
男性/40-59才	24 -5.4	42 0.3	57 3.6	32 2.6	155
男性/60才以上	4 -9.0	28 -2.4	55 3.2	68 11.6	155
合計	434	324	311	171	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=391.44, p<.001$

表 1-5 民間放送の財源はほとんどが広告であるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったく知らない	あまり知らない	ある程度知っている	よく知っている	合計
女性/15-19才	50 6.4	31 2.0	49 -2.8	25 -3.6	155
女性/20-39才	36 3.0	31 2.0	58 -1.2	30 -2.7	155
女性/40-59才	16 -1.8	22 -0.2	81 2.8	36 -1.5	155
女性/60才以上	3 -4.9	17 -1.4	81 2.8	54 1.9	155
男性/15-19才	37 3.3	34 2.8	43 -3.8	41 -0.6	155
男性/20-39才	31 1.8	19 -0.9	62 -0.5	43 -0.2	155
男性/40-59才	11 -3.0	21 -0.4	74 1.6	49 1.0	155
男性/60才以上	3 -4.9	6 -4.0	72 1.2	74 5.7	155
合計	187	181	520	352	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=178.01, p<.001$

表 1-6 同じ人が複数の放送局を経営してはいけない規則があるの男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったく知らない	あまり知らない	ある程度知っている	よく知っている	合計
女性/15-19才	96 3.7	40 -2.4	14 -1.2	5 -1.4	155
女性/20-39才	93 3.1	43 -1.8	13 -1.5	6 -1.0	155
女性/40-59才	79 0.7	64 2.0	9 -2.5	3 -2.1	155
女性/60才以上	67 -1.3	64 2.0	17 -0.4	7 -0.6	155
男性/15-19才	85 1.8	39 -2.6	22 0.9	9 0.1	155
男性/20-39才	80 0.9	48 -0.9	17 -0.4	10 0.5	155
男性/40-59才	53 -3.7	58 0.9	30 3.0	14 2.0	155
男性/60才以上	45 -5.1	69 2.9	26 2.0	15 2.4	155
合計	598	425	148	69	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=83.85, p<.001$

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

表 1-7 民間放送を外国人が経営してはいけない規則があるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったく知らない	あまり知らない	ある程度知っている	よく知っている	合計
女性/15-19才	122 6.1	29 -2.7	4 -3.6	0 -3.1	155
女性/20-39才	116 5.1	29 -2.7	9 -2.3	1 -2.7	155
女性/40-59才	98 2.0	45 0.4	10 -2.0	2 -2.4	155
女性/60才以上	77 -1.6	55 2.3	17 -0.1	6 -0.8	155
男性/15-19才	96 1.6	35 -1.5	13 -1.2	11 1.1	155
男性/20-39才	81 -1.0	45 0.4	16 -0.4	13 1.9	155
男性/40-59才	59 -4.8	46 0.6	33 4.3	17 3.4	155
男性/60才以上	43 -7.5	60 3.3	37 5.3	15 2.6	155
合計	692	344	139	65	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=174.18, p<.001$

表 1-8 BPO はNHKと民間放送連盟が自主的に設置した放送倫理と番組向上のための第三者機関であるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったく知らない	あまり知らない	ある程度知っている	よく知っている	合計
女性/15-19才	109 7.6	30 -2.4	9 -5.6	7 -1.2	155
女性/20-39才	94 5.0	35 -1.5	21 -3.1	5 -1.9	155
女性/40-59才	73 1.4	45 0.4	34 -0.5	3 -2.6	155
女性/60才以上	61 -0.7	45 0.4	38 0.3	11 0.1	155
男性/15-19才	73 1.4	49 1.2	21 -3.1	12 0.5	155
男性/20-39才	49 -2.8	42 -0.1	47 2.1	17 2.2	155
男性/40-59才	32 -5.8	48 1.0	63 5.4	12 0.5	155
男性/60才以上	30 -6.1	48 1.0	59 4.6	18 2.5	155
合計	521	342	292	85	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=181.22, p<.001$

(2) テレビ報道の公平・公正性に関する意識の性別・年代差

性別・年代別に分けて、クロス集計および χ^2 検定を実施したところ、全ての項目において回答に偏りが見られた(表2-1~2-8を参照)。

残差分析の結果、「『政治的に公平な報道』とは、それぞれの立場の意見を同じ時間ずつ放送することである」では全体的な回答は賛否が拮抗していた。女性20-39歳では「強くそう

思う」と回答する人が有意に少ない一方、男性 60 代以上ではそのように考える人が有意に多いことが示された。また、男性 15-19 歳は、「まったくそう思わない」人が有意に多い一方で、「強くそう思う」人も少ないわけではなく、若年層男性は考え方が二極化している傾向も示された。全体的には男性の方が女性よりも、それぞれの立場の意見を同じ時間ずつ放送することが政治的に公平な報道であると考えられる傾向が見られた。

表 2-1 「政治的に公平な報道」とは、それぞれの立場の意見を同じ時間ずつ放送することである
についての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	13 -0.8	64 1.9	66 -0.5	12 -1.3	155
女性/20-39才	23 2.0	69 2.8	59 -1.7	4 -3.5	155
女性/40-59才	7 -2.5	47 -1.2	94 4.3	7 -2.6	155
女性/60才以上	9 -1.9	48 -1	76 1.2	22 1.5	155
男性/15-19才	34 5.1	50 -0.7	49 -3.5	22 1.5	155
男性/20-39才	15 -0.2	47 -1.2	72 0.5	21 1.3	155
男性/40-59才	10 -1.7	61 1.3	69 0.0	15 -0.4	155
男性/60才以上	16 0.0	43 -1.9	67 -0.3	29 3.5	155
合計	127	429	552	132	1240

太字は $p < .001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p < .001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=94.58, p < .001$

「『政治的な公平な報道』とは、さまざまな立場の意見をできるだけ多くとりあげることである」では、全体的にはさまざまな立場の意見をできるだけ多くとりあげることが政治的に公平な報道であると認識されている傾向が見られ、女性の回答者はほぼ全体の回答の傾向と同様の意見分布を示していた。しかし、男性 15-19 歳では前問同様の二極化が見られ、「まったくそう思わない」と回答する人が有意に多い一方、そう思う人も期待度数とほぼ同数で見られていた。男性 60 歳以上は、「強くそう思う」人が有意に多くなっていた。

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

表 2-2 「政治的に公平な報道」とは、さまざまな立場の意見をできるだけ多くとりあげることであるについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	9 0.3	35 3.0	80 -2.1	31 -0.2	155
女性/20-39才	13 1.9	22 -0.2	94 0.3	26 -1.3	155
女性/40-59才	1 -2.7	18 -1.2	115 4.0	21 -2.3	155
女性/60才以上	5 -1.2	9 -3.3	101 1.6	40 1.7	155
男性/15-19才	23 5.7	32 2.2	66 -4.6	34 0.4	155
男性/20-39才	6 -0.8	31 2.0	84 -1.4	34 0.4	155
男性/40-59才	6 -0.8	25 0.5	102 1.7	22 -2.1	155
男性/60才以上	2 -2.4	10 -3.1	95 0.5	48 3.4	155
合計	65	182	737	256	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=109.23, p<.001$

「『政治的に公平な報道』とは、国会の議席の比率に合わせて放送する時間を配分することである」では、全体的に国会の議席の比率に合わせて放送時間を配分することを公平だと「まったくそう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答する人が多く、女性の回答者はほぼ全体の回答の傾向と同様の意見分布を示していた。男性 60 歳以上は、有意に「まったくそう思わない」という回答が多く、「どちらかといえばそう思う」という回答が少なかった。「『政治的に公平な報道』とは、世論調査の比率に合わせて放送する時間を配分することである」でも、全体的には前問と同様の傾向が見られており、全体的には世論調査の比率に合わせて放送時間を配分することを公平な報道とは思わない人が多く、特にその傾向が男性 60 歳以上で顕著であった。

表 2-3 「政治的に公平な報道」とは、国会の議席の比率に合わせて放送する時間を配分することであるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	48 -0.8	80 1.8	26 -0.6	1 -1.6	155
女性/20-39才	47 -1.0	83 2.3	22 -1.5	3 -0.5	155
女性/40-59才	49 -0.6	71 0.2	34 1.1	1 -1.6	155
女性/60才以上	54 0.3	65 -0.8	32 0.7	4 0.1	155
男性/15-19才	53 0.1	69 -0.1	25 -0.9	8 2.3	155
男性/20-39才	43 -1.7	66 -0.6	40 2.5	6 1.2	155
男性/40-59才	50 -0.5	62 -1.3	38 2.0	5 0.6	155
男性/60才以上	76 4.3	62 -1.3	14 -3.3	3 -0.5	155
合計	420	558	231	31	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=48.97, p<.01$

表 2-4 「政治的に公平な報道」とは、世論調査の比率に合わせて放送する時間を配分することであるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	36 -1.0	71 -0.2	40 0.7	8 1.6	155
女性/20-39才	35 -1.2	78 1.0	38 0.3	4 -0.4	155
女性/40-59才	37 -0.8	81 1.5	36 -0.1	1 -1.9	155
女性/60才以上	46 0.9	66 -1.1	40 0.7	3 -0.9	155
男性/15-19才	47 1.1	59 -2.3	42 1.1	7 1.1	155
男性/20-39才	30 -2.2	74 0.3	45 1.7	6 0.6	155
男性/40-59才	36 -1.0	82 1.7	31 -1.1	6 0.6	155
男性/60才以上	64 4.4	68 -0.8	20 -3.3	3 -0.9	155
合計	331	579	292	38	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=45.88, p<.01$

「報道に求められるのは、政府による公式発表に忠実に報道することである」では、政府による公式発表に忠実に報道することが報道に求められると考える人とそうでない人は全体的に半々であることが示された。詳細に見ると、男性 60 歳以上だけが、そのような意見に「まったくそう思わない」人が有意に多く、「どちらかといえばそう思う」人が有意に少なかった。

「報道に求められるのは、問題点を重点的に取り上げ批判することである」では、全体的にそのように考える人は少なく、性別、年代ごとの差もそれほどなかった。ただし、男性 60 歳以上では、「どちらかといえばそう思わない」と回答する人が有意に少なく、その分

「強くそう思う」と答える人が多めであった。

表 2-5 報道に求められるのは、政府による公式発表に忠実に報道することであるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	24 -1.6	40 -1.2	60 0.7	31 2.5	155
女性/20-39才	19 -2.6	47 0.1	63 1.2	26 1.2	155
女性/40-59才	21 -2.2	46 -0.1	71 2.7	17 -1.0	155
女性/60才以上	39 1.7	46 -0.1	56 0.0	14 -1.8	155
男性/15-19才	26 -1.1	57 2.0	46 -1.8	26 1.2	155
男性/20-39才	23 -1.8	47 0.1	60 0.7	25 1.0	155
男性/40-59才	31 -0.1	47 0.1	62 1	15 -1.5	155
男性/60才以上	67 7.7	42 -0.8	31 -4.5	15 -1.5	155
合計	250	372	449	169	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=92.82, p<.001$

表 2-6 報道に求められるのは、問題点を重点的に取り上げ批判することであるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	38 1.9	75 0.9	37 -1.6	5 -1.8	155
女性/20-39才	35 1.2	74 0.8	39 -1.3	7 -1.1	155
女性/40-59才	22 -1.6	88 3.2	37 -1.6	8 -0.7	155
女性/60才以上	27 -0.5	69 -0.1	49 0.6	10 0.0	155
男性/15-19才	40 2.3	63 -1.1	43 -0.5	9 -0.4	155
男性/20-39才	17 -2.7	71 0.2	53 1.4	14 1.3	155
男性/40-59才	18 -2.5	69 -0.1	57 2.1	11 0.3	155
男性/60才以上	39 2.1	48 -3.7	51 1.0	17 2.4	155
合計	236	557	366	81	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=54.71, p<.001$

「報道に求められるのは、多数派が支持する意見や事柄を中心にとりあげて知らせることである」では、報道は多数派が支持する意見や事柄を中心にとり上げることを求める人は少数派であることが示された。この意見を支持しない傾向は男性 60 歳以上に強かった。

「報道に求められるのは、表面に出にくい意見や事柄を中心にとりあげて知らせることである」では、「どちらかといえばそう思う」人が多くなっていた。年代、性別により大きな違いはほとんど見られなかったが、男性 15-19 歳だけが、有意に「どちらかといえばそう思

わない」と多く回答しており、他と異なる傾向を示していた。

表 2-7 報道に求められるのは、多数派が支持する意見や事柄を中心にとりあげて知らせることであるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	合計
女性/15-19才	45 -0.6	77 0.8	30 -0.1	3 -0.7	155
女性/20-39才	44 -0.7	80 1.4	25 -1.2	6 0.8	155
女性/40-59才	46 -0.4	72 0.0	35 1.0	2 -1.2	155
女性/60才以上	46 -0.4	72 0.0	33 0.5	4 -0.2	155
男性/15-19才	55 1.3	62 -1.7	33 0.5	5 0.3	155
男性/20-39才	29 -3.5	80 1.4	40 2.1	6 0.8	155
男性/40-59才	41 -1.3	80 1.4	29 -0.3	5 0.3	155
男性/60才以上	78 5.6	54 -3.1	19 -2.5	4 -0.2	155
合計	384	577	244	35	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=50.50, p<.001$

表 2-8 報道に求められるのは、表面に出にくい意見や事柄をとりあげて知らせることであるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	合計
女性/15-19才	13 0.9	34 0.4	73 -1.1	35 0.3	155
女性/20-39才	11 0.2	28 -0.8	74 -0.9	42 1.8	155
女性/40-59才	7 -1.2	25 -1.5	86 1.2	37 0.8	155
女性/60才以上	5 -1.8	22 -2.1	99 3.4	29 -0.9	155
男性/15-19才	18 2.6	49 3.6	58 -3.7	30 -0.7	155
男性/20-39才	13 0.9	37 1.1	76 -0.6	29 -0.9	155
男性/40-59才	7 -1.2	33 0.2	82 0.5	33 -0.1	155
男性/60才以上	9 -0.5	28 -0.8	86 1.2	32 -0.3	155
合計	83	256	634	267	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=44.85, p<.01$

(3) 報道における人権配慮に関する意識の性別・年代差

性別・年代別に分けて、クロス集計および χ^2 検定を行ったところ、全ての項目において回答に偏りが見られた(表 3-1~3-12 参照)。

また、残差分析の結果、「テレビの報道は人権に十分に配慮している」では、人権への配慮を十分でないとする回答がやや多かったが、女性 60 歳以上では「まったくそう思わない」という回答が有意に少なくなっていた。男性 20-39 歳で比較的そう思わない人が多くなって

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

いた。

「テレビの報道は人権への配慮が足りない」では、前問と逆の質問方法を採用して同様の質問を行ったが、全体的に「配慮が足りない」とする回答がやや多く、性別、年代による大きな差は見られなかった。

表 3-1 テレビの報道は人権に十分に配慮しているについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	合計
女性/15-19才	21 -0.5	85 1.5	45 -1.0	4 -0.6	155
女性/20-39才	30 1.7	78 0.3	44 -1.2	3 -1.1	155
女性/40-59才	18 -1.2	82 1	52 0.3	3 -1.1	155
女性/60才以上	8 -3.6	90 2.3	52 0.3	5 -0.2	155
男性/15-19才	23 0.0	71 -0.9	51 0.1	10 2.2	155
男性/20-39才	34 2.7	65 -2.0	52 0.3	4 -0.6	155
男性/40-59才	30 1.7	72 -0.8	46 -0.8	7 0.8	155
男性/60才以上	19 -0.9	68 -1.4	61 1.9	7 0.8	155
合計	183	611	403	43	1240

太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=40.42, p<.01$

表 3-2 テレビの報道は人権への配慮が足りないについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	合計
女性/15-19才	11 1.4	52 -0.4	69 -0.7	23 0.8	155
女性/20-39才	11 1.4	50 -0.8	75 0.3	19 -0.3	155
女性/40-59才	1 -2.6	54 0.0	82 1.5	18 -0.5	155
女性/60才以上	4 -1.4	48 -1.1	90 2.9	13 -1.8	155
男性/15-19才	14 2.6	60 1.0	62 -1.9	19 -0.3	155
男性/20-39才	8 0.2	54 0.0	64 -1.6	29 2.3	155
男性/40-59才	6 -0.6	49 -0.9	81 1.3	19 -0.3	155
男性/60才以上	5 -1.0	67 2.3	63 -1.8	20 0.0	155
合計	60	434	586	160	1240

$\chi^2(21)=40.21, p<.01$

「テレビの報道は、女性差別的な印象を受ける」では、全体的には女性差別的な印象を受けないという回答が多かったが、女性 40-59 歳、60 歳以上では有意に「まったくそう思わない」という回答が少なかった。逆に、男性 15-19 歳においては、「まったくそう思わない」という回答が有意に多かった。全体的な人数は少ないものの、もっとも「強くそう思う」と答えていたのが男女 15-19 歳であった。

「テレビ報道は、性的マイノリティに対して十分に配慮している」とでは、賛否の回答がほぼ同数であった。女性 60 歳以上では、「まったくそう思わない」とする人が有意に多かった一方、男性 15-19 歳では「強くそう思う」と答える人が有意に多いなど、性別、年代によって認識の違いがやや見られた。

「テレビ視聴は、性的マイノリティに対して配慮が足りない」は、前問と逆の質問方法を採用して同様の質問を行ったが、「どちらかといえばそう思わない」という回答が多くなっていた。特に 15-19 歳の男性で「そう思わない」という回答が有意に多かった。それ以外は、性別、年代によって大きな違いは見られなかった。

表 3-3 テレビの報道は、女性差別的な印象を受けるについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	合計
女性/15-19才	24 0.7	92 -0.2	31 -1.0	8 1.6	155
女性/20-39才	21 0.0	90 -0.5	41 1.0	3 -0.9	155
女性/40-59才	8 -3.3	93 0.0	53 3.5	1 -1.9	155
女性/60才以上	6 -3.8	97 0.7	49 2.6	3 -0.9	155
男性/15-19才	40 4.7	76 -3.0	31 -1.0	8 1.6	155
男性/20-39才	32 2.7	93 0.0	26 -2.0	4 -0.4	155
男性/40-59才	22 0.2	96 0.5	31 -1.0	6 0.6	155
男性/60才以上	16 -1.3	108 2.6	26 -2.0	5 0.1	155
合計	169	745	288	38	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=79.23, p<.001$

表 3-4 テレビの報道は、性的マイノリティ（性同一性障害・ゲイ・レズビアン等）に対して十分に配慮しているについての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	合計
女性/15-19才	20 2.4	72 0.4	58 -1.6	5 -0.3	155
女性/20-39才	18 1.7	71 0.3	63 -0.8	3 -1.2	155
女性/40-59才	8 -1.4	78 1.5	69 0.3	0 -2.6	155
女性/60才以上	1 -3.6	81 2.0	72 0.8	1 -2.1	155
男性/15-19才	18 1.7	58 -2.0	59 -1.5	20 6.6	155
男性/20-39才	18 1.7	76 1.1	58 -1.6	3 -1.2	155
男性/40-59才	12 -0.2	59 -1.8	79 2	5 -0.3	155
男性/60才以上	5 -2.4	61 -1.5	81 2.4	8 1.1	155
合計	100	556	539	45	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=95.49, p<.001$

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

表 3-5 テレビの報道は、性的マイノリティ（性同一性障害・ゲイ・レズビアン等）に対して配慮が足りないについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	14 0.4	74 -1.9	55 0.8	12 2.1	155
女性/20-39才	13 0.0	85 0.0	49 -0.3	8 0.5	155
女性/40-59才	4 -2.8	85 0.0	62 2.1	4 -1.2	155
女性/60才以上	5 -2.5	97 2.1	52 0.3	1 -2.5	155
男性/15-19才	27 4.4	79 -1.0	40 -1.9	9 0.9	155
男性/20-39才	16 1.0	77 -1.4	53 0.5	9 0.9	155
男性/40-59才	10 -0.9	96 1.9	40 -1.9	9 0.9	155
男性/60才以上	14 0.4	86 0.2	52 0.3	3 -1.6	155
合計	103	679	403	55	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。

$\chi^2(21)=55.81, p<.001$

「テレビの報道は、障害者に対して十分に配慮している」では、全体的に配慮しているという回答がやや多かった。詳細に見ると、女性 60 歳以上で「そう思わない」という回答が有意に少なく、男性 20-39 歳で、有意に多かった。ただし、もっとも多く「強くそう思う」と回答していたのは女性 15-19 歳であった。

前問と逆の質問方法を採用した同様の質問では、全体的に障害者に配慮が足りないとは思わないという回答が多かった。男性 15-19 歳が有意に多く「まったくそう思わない」と回答している以外は、性別、年代による差はほとんど見られなかった。

表 3-6 テレビの報道は、障害者に対して十分に配慮しているについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	13 1.0	54 -0.9	74 -0.9	14 3.1	155
女性/20-39才	14 1.3	61 0.4	75 -0.7	5 -0.7	155
女性/40-59才	5 -1.8	66 1.2	81 0.3	3 -1.5	155
女性/60才以上	1 -3.2	61 0.4	90 1.9	3 -1.5	155
男性/15-19才	14 1.3	50 -1.6	79 0.0	12 2.3	155
男性/20-39才	20 3.4	66 1.2	65 -2.4	4 -1.1	155
男性/40-59才	13 1.0	54 -0.9	83 0.7	5 -0.7	155
男性/60才以上	2 -2.9	60 0.2	86 1.2	7 0.2	155
合計	82	472	633	53	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。

$\chi^2(21)=59.00, p<.001$

表 3-7 テレビの報道は、障害者に対しての配慮が足りないについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	合計
女性/15-19才	16 1.9	79 -1.7	48 -0.1	12 2.1	155
女性/20-39才	12 0.6	87 -0.3	50 0.2	6 -0.4	155
女性/40-59才	2 -2.9	97 1.4	50 0.2	6 -0.4	155
女性/60才以上	4 -2.2	95 1.1	54 1.0	2 -2.1	155
男性/15-19才	20 3.3	86 -0.5	41 -1.4	8 0.4	155
男性/20-39才	14 1.2	79 -1.7	52 0.6	10 1.2	155
男性/40-59才	11 0.2	91 0.4	45 -0.7	8 0.4	155
男性/60才以上	4 -2.2	97 1.4	50 0.2	4 -1.2	155
合計	83	711	390	56	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。 $\chi^2(21)=45.11, p<.01$

「テレビの報道は、人種・民族差別的な印象を受ける」では、全体的に見ると人種・民族差別的な印象を受けないという回答が多かった。また、性別、年代による大きな差も見られなかった。

「テレビの報道は、高齢者に十分に配慮している」では、賛否の回答がほぼ同数であった。詳細に見ると、男性 15-19 歳で「強くそう思う」という回答が有意に多かった以外は、性別、年代による大きな差は見られなかった。

表 3-8 テレビの報道は、人種・民族差別的な印象を受けるについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	合計
女性/15-19才	22 2.0	80 -1.8	45 0.3	8 0.8	155
女性/20-39才	15 0.0	98 1.3	34 -1.8	8 0.8	155
女性/40-59才	8 -2.0	90 -0.1	56 2.4	1 -2.3	155
女性/60才以上	8 -2.0	92 0.3	54 2.0	1 -2.3	155
男性/15-19才	23 2.3	79 -2.0	41 -0.5	12 2.6	155
男性/20-39才	16 0.3	92 0.3	39 -0.9	8 0.8	155
男性/40-59才	15 0.0	96 1.0	40 -0.7	4 -0.9	155
男性/60才以上	13 -0.6	96 1.0	39 -0.9	7 0.4	155
合計	120	723	348	49	1240

 $\chi^2(21)=44.83, p<.01$

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

表 3-9 テレビの報道は、高齢者に十分に配慮しているについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	11 0.6	55 -1.9	80 1.2	9 0.9	155
女性/20-39才	14 1.7	67 0.2	69 -0.7	5 -0.7	155
女性/40-59才	6 -1.2	76 1.8	71 -0.4	2 -2.0	155
女性/60才以上	4 -1.9	76 1.8	73 0.0	2 -2.0	155
男性/15-19才	13 1.4	56 -1.7	71 -0.4	15 3.5	155
男性/20-39才	15 2.1	68 0.4	63 -1.7	9 0.9	155
男性/40-59才	6 -1.2	62 -0.7	78 0.8	9 0.9	155
男性/60才以上	5 -1.5	67 0.2	80 1.2	3 -1.6	155
合計	74	527	585	54	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。 $\chi^2(21)=46.74, p<.01$

前問と逆の質問方法を採用して、高齢者への配慮についての質問を行ったが、全体的にそう思わないという回答が多くなっていた。こちらは、男性 15-19 歳が「強くそう思わない」と有意に多く回答する一方、女性 60 歳以上は有意に少なく「まったくそう思わない」と回答しており、有意に多く、「どちらかといえばそう思う」と回答していた。

表 3-10 テレビの報道は、高齢者への配慮が足りないについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	17 1.5	92 0.8	40 -1.8	6 0.4	155
女性/20-39才	15 0.8	87 -0.1	47 -0.6	6 0.4	155
女性/40-59才	4 -2.7	89 0.3	58 1.5	4 -0.5	155
女性/60才以上	3 -3.0	79 -1.5	70 3.7	3 -1.0	155
男性/15-19才	23 3.4	89 0.3	38 -2.2	5 -0.1	155
男性/20-39才	15 0.8	83 -0.8	48 -0.4	9 1.9	155
男性/40-59才	14 0.5	94 1.1	44 -1.1	3 -1.0	155
男性/60才以上	8 -1.4	87 -0.1	55 0.9	5 -0.1	155
合計	99	700	400	41	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=49.21, p<.001$

「テレビの報道は、子どもへ十分に配慮している」では、子どもへの配慮はわずかに十分とは思わないと回答する人が多かった。また、性別、年代による違いはほとんど見られなかった。前問と逆の質問方法で子どもへの配慮について行った質問では、「配慮が足りない」とは思わないという回答がやや多くなっていた。特に男性 15-19 歳で「まったくそう思わない」という回答が有意に多かった。それ以外は、性別、年代による違いは見られなかった。

表 3-11 テレビの報道は、子どもへ十分に配慮しているについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	17 1.0	65 -0.9	66 0.2	7 0.3	155
女性/20-39才	21 2.2	73 0.5	57 -1.3	4 -1.0	155
女性/40-59才	11 -0.8	79 1.5	61 -0.6	4 -1.0	155
女性/60才以上	4 -2.9	75 0.8	74 1.1	2 -1.9	155
男性/15-19才	20 1.9	61 -1.6	61 -0.6	13 2.9	155
男性/20-39才	16 0.7	67 -0.6	63 -0.3	9 1.1	155
男性/40-59才	11 -0.8	70 -0.1	69 0.8	5 -0.6	155
男性/60才以上	9 -1.4	73 0.5	66 0.2	7 0.3	155
合計	109	563	517	51	1240

 $\chi^2(21)=37.20, p<.05$

表 3-12 テレビの報道は、子どもへの配慮が足りないについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったくそう思わない	どちらかといえばそう思わない	どちらかといえばそう思う	強くそう思う	
女性/15-19才	16 1.7	79 0.1	47 -1.4	13 0.8	155
女性/20-39才	12 0.3	71 -1.3	56 0.2	16 1.8	155
女性/40-59才	3 -2.7	78 -0.1	65 1.8	9 -0.6	155
女性/60才以上	3 -2.7	76 -0.4	70 2.7	6 -1.6	155
男性/15-19才	26 5.0	75 -0.6	42 -2.3	12 0.5	155
男性/20-39才	8 -1.0	84 0.9	49 -1.1	14 1.1	155
男性/40-59才	11 0.0	89 1.8	50 -0.9	5 -1.9	155
男性/60才以上	9 -0.7	76 -0.4	60 0.9	10 -0.2	155
合計	88	628	439	85	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。 $\chi^2(21)=59.99, p<.001$

(4) ニュースの情報源としてのメディア利用の性別・年代差

ニュースの情報源としてのメディア利用について性別・年代別に分けてクロス集計および χ^2 検定を実施したところ、質問したすべてのメディアについて、回答に偏りが見られた(表 4-1~4-9 参照)。以下、メディアごとの特徴を記載する。

(a) NHK (地上デジタルおよびBS) のテレビニュース

女性 15-19 歳, 20-39 歳および男性 15-19 歳で「よく利用する」が有意に少なく, 男女とも 60 歳以上の人々が「よく利用する」と有意に多く回答していた。年代が上がるにつれ, 男女とも利用者が増えていく傾向が見られた。

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

表 4-1 NHK（地上デジタルおよびBS）のテレビニュースについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったく利用していない	あまり利用していない	たまに利用する	よく利用する	
女性/15-19才	41 2.3	50 4.0	44 -0.9	20 -4.6	155
女性/20-39才	40 2.1	41 2.1	49 0.0	25 -3.6	155
女性/40-59才	31 0.1	26 -1.1	58 1.6	40 -0.8	155
女性/60才以上	12 -4.0	13 -3.9	47 -0.4	83 7.4	155
男性/15-19才	39 1.8	47 3.3	51 0.3	18 -5.0	155
男性/20-39才	41 2.3	25 -1.4	56 1.3	33 -2.1	155
男性/40-59才	27 -0.8	30 -0.3	61 2.2	37 -1.3	155
男性/60才以上	13 -3.8	19 -2.6	27 -4.1	96 9.9	155
合計	244	251	393	352	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=226.95, p<.001$

(b) 民放（地上デジタルおよびBS）のテレビニュース

全体的に「よく利用する」がもっとも多い回答であった。ただし、詳細に見ると、男性 60 歳以上は有意に多く「よく利用する」と回答する一方で、男性 20-39 歳は有意に少なく回答しており、この 2 グループの間は 2 倍以上の開きがあった。また、女性 60 歳以上は、「まったく利用しない」の回答が有意に少なく、まったく利用しない人はわずか 4 人であった。

表 4-2 民放（地上デジタルおよびBS）のテレビニュースについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったく利用していない	あまり利用していない	たまに利用する	よく利用する	
女性/15-19才	25 2.5	29 2.1	38 -3.1	63 0.0	155
女性/20-39才	23 2.0	19 -0.4	51 -0.7	62 -0.2	155
女性/40-59才	7 -2.5	14 -1.7	65 1.8	69 1.0	155
女性/60才以上	4 -3.4	10 -2.7	65 1.8	76 2.2	155
男性/15-19才	23 2.0	33 3.1	40 -2.7	59 -0.7	155
男性/20-39才	23 2.0	23 0.6	73 3.2	36 -4.8	155
男性/40-59才	13 -0.8	25 1.1	59 0.7	58 -0.9	155
男性/60才以上	10 -1.7	13 -2.0	49 -1.1	83 3.5	155
合計	128	166	440	506	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=95.42, p<.001$

(c) 海外のテレビニュース専門チャンネル (CNN, BBC など)

全体的に「まったく利用していない」の回答がもっとも多くなっていた。詳細に見ると、女性 20-39 歳は有意に多く「まったく利用していない」と回答し、男性 60 歳以上は有意に少なく回答していた。「よく利用する」ともっとも多く回答していたのは、60 歳以上女性であった。

表 4-3 海外のテレビニュース専門チャンネル (CNN, BBC など) についての男女・年代差

(上段:度数、下段:調整済み残差)					
	まったく利用していない	あまり利用していない	たまに利用する	よく利用する	合計
女性/15-19才	112 2.3	33 -0.2	8 -2.3	2 -1.7	155
女性/20-39才	118 3.4	25 -1.9	10 -1.8	2 -1.7	155
女性/40-59才	105 1.1	30 -0.9	16 -0.1	4 -0.7	155
女性/60才以上	92 -1.2	31 -0.6	19 0.7	13 3.4	155
男性/15-19才	95 -0.7	35 0.2	20 1.0	5 -0.3	155
男性/20-39才	96 -0.5	37 0.6	16 -0.1	6 0.2	155
男性/40-59才	96 -0.5	43 1.8	14 -0.7	2 -1.7	155
男性/60才以上	77 -3.9	39 1.0	28 3.2	11 2.5	155
合計	791	273	131	45	1240

太字は $p < .001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p < .001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=56.97, p < .001$

(d) ラジオ

全体的に「まったく利用していない」の回答がもっとも多くなっていた。「まったく利用していない」の回答がもっとも多いのは女性 20-39 歳であり、もっとも少ないのは男性 60 歳以上であった。「よく利用する」がもっとも多いのも男性 60 歳以上であり、全体的に女性よりも男性の方がラジオをニュース源として利用している傾向が見られた。

表 4-4 ラジオについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったく利用していない	あまり利用していない	たまに利用する	よく利用する	
女性/15-19才	82 1.3	42 0.9	26 -0.7	5 -2.7	155
女性/20-39才	103 4.9	26 -2.3	17 -2.6	9 -1.6	155
女性/40-59才	81 1.1	39 0.3	25 -0.9	10 -1.3	155
女性/60才以上	74 -0.1	35 -0.5	27 -0.4	19 1.4	155
男性/15-19才	75 0.1	45 1.5	30 0.2	5 -2.7	155
男性/20-39才	68 -1.1	33 -0.9	37 1.8	17 0.8	155
男性/40-59才	59 -2.6	46 1.7	26 -0.7	24 2.9	155
男性/60才以上	53 -3.7	33 -0.9	44 3.3	25 3.2	155
合計	595	299	232	114	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=79.47, p<.001$

(e) 新聞

全体でみると利用すると利用しない人とがほぼ半分ずつであった。詳細に見ると、女性は、15-19 歳、20-39 歳では有意に多く「まったく利用しない」と回答する一方、60 歳以上は有意に少なく回答していた。男性では、60 歳以上が有意に少なく「まったく利用しない」と回答していた。若者の新聞離れと言われて久しいが、女性 40-59 歳と男性の 15-19 歳とで同じ人数が「まったく利用しない」と回答しており、女性のほうが、新聞離れが激しいことが顕著であることがみてとれる。また、「よく利用する」は男女とも 15-19 歳、20-39 歳で有意に少ない回答、60 歳以上で有意に多い回答であった。一番少ない女性 15-19 歳では 11 人が「良く利用する」という回答であるのに対し、一番多い男性 60 歳以上では 107 人と実に 10 倍近い開きが見られていた。

表 4-5 新聞についての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったく利用していない	あまり利用していない	たまに利用する	よく利用する	
女性/15-19才	69 4.3	51 4.2	24 -1.5	11 -6.7	155
女性/20-39才	76 5.6	32 0.2	28 -0.6	19 -5.2	155
女性/40-59才	53 1.3	24 -1.6	25 -1.2	53 1.1	155
女性/60才以上	21 -4.7	16 -3.3	25 -1.2	93 8.6	155
男性/15-19才	53 1.3	43 2.5	44 2.9	15 -6.0	155
男性/20-39才	50 0.8	42 2.3	37 1.3	26 -3.9	155
男性/40-59才	34 -2.3	29 -0.5	40 2.0	52 0.9	155
男性/60才以上	12 -6.4	13 -3.9	23 -1.7	107 11.2	155
合計	368	250	246	376	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=329.89, p<.001$

(f) インターネットのポータルサイト (Yahoo!, MSN, Bing, Google など)

全体的に「よく利用する」という回答がもっとも多くなっていた。詳細に見た場合、女性 60 歳以上で有意に「まったく利用しない」という回答が多かったが、それ以外は性別、年代による大きな差は見られず、ニュース源としてインターネットでのポータルサイト利用が定着してきている様子が伺える。

表 4-6 インターネットのポータルサイト (Yahoo!, MSN, Bing, Google など) についての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったく利用していない	あまり利用していない	たまに利用する	よく利用する	
女性/15-19才	6 -1.4	24 1.6	54 0.7	71 -1.0	155
女性/20-39才	9 -0.4	11 -1.9	46 -0.7	89 2.1	155
女性/40-59才	7 -1.1	12 -1.6	48 -0.4	88 1.9	155
女性/60才以上	21 3.8	20 0.5	50 0.0	64 -2.2	155
男性/15-19才	12 0.7	21 0.8	55 0.9	67 -1.7	155
男性/20-39才	10 0.0	13 -1.4	50 0.0	82 0.9	155
男性/40-59才	5 -1.8	15 -0.8	48 -0.4	87 1.8	155
男性/60才以上	11 0.3	29 2.9	49 -0.2	66 -1.8	155
合計	81	145	400	614	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=45.35, p<.01$

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

(g) インターネットの通信社・新聞社・放送局・出版社のサイト

全体的に見ると、利用していない回答のほうに偏った結果であり、ポータルサイトに比べると利用がなされていないことが伺える。詳細にみると、女性 20-39 歳が有意に多く「まったく利用しない」と回答しており、男性 40-59 歳、60 歳以上は有意に少なく回答していた。また、女性 15-19 歳では、「よく利用する」という回答が有意に少なかった。全体的に男性の方が、よく利用する傾向が見られた。

表 4-7 インターネットの通信社・新聞社・放送局・出版社のサイトについての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったく利用していない	あまり利用していない	たまに利用する	よく利用する	
女性/15-19才	63 2.0	51 1.2	34 -1.1	7 -3.1	155
女性/20-39才	70 3.3	31 -2.6	42 0.5	12 -1.8	155
女性/40-59才	55 0.5	43 -0.4	39 -0.1	18 -0.2	155
女性/60才以上	54 0.4	42 -0.5	37 -0.5	22 0.9	155
男性/15-19才	57 0.9	49 0.8	32 -1.5	17 -0.5	155
男性/20-39才	50 -0.4	36 -1.7	44 0.9	25 1.6	155
男性/40-59才	32 -3.6	48 0.6	50 2.1	25 1.6	155
男性/60才以上	35 -3.1	59 2.7	37 -0.5	24 1.4	155
合計	416	359	315	150	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=56.98, p<.001$

(h) インターネットのニュース専門サイト (Huffington Post, OurPlanet, 2 チャンネルニュース速報など)

全体的に見ると、利用していない回答のほうに偏った結果であった。詳細に見ると、男性 15-19 歳は有意に少なく「まったく利用しない」と回答しており、逆に有意に多く「よく利用する」と回答していた。男性 20-39 歳も有意に多く「よく利用する」と回答していた。全体的に男性のほうが、女性よりもよく利用する傾向が見られた。

表 4-8 インターネットのニュース専門サイト (Huffington Post, OurPlanet, 2 チャンネルニュース速報など) についての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったく利用していない	あまり利用していない	たまに利用する	よく利用する	
女性/15-19才	57 0.0	48 0.7	31 -0.8	19 0.1	155
女性/20-39才	69 2.1	33 -2.2	36 0.2	17 -0.4	155
女性/40-59才	69 2.1	48 0.7	30 -1	8 -2.8	155
女性/60才以上	72 2.6	48 0.7	25 -2	10 -2.3	155
男性/15-19才	36 -3.8	41 -0.6	44 1.9	34 4.1	155
男性/20-39才	47 -1.8	35 -1.8	42 1.5	31 3.3	155
男性/40-59才	52 -0.9	49 0.9	40 1.1	14 -1.2	155
男性/60才以上	56 -0.2	53 1.6	31 -0.8	15 -0.9	155
合計	458	355	279	148	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。 $\chi^2(21)=69.22, p<.001$

(i) SNS (LINE, Twitter, Facebook など)

全体的にみると利用する人と利用しない人とが半分ずつくらいの回答であった。詳細に見ると、男女とも 15-19 歳で有意に少なく「まったく利用しない」と回答している一方、有意に多く「よく利用する」と回答していた。女性 20-39 歳も同様であった。男女とも 60 歳以上は、有意に多く「まったく利用しない」と回答し、有意に少なく「よく利用する」と回答していた。男性 40-59 歳は、有意に少なく「よく利用する」と回答していた。もっとも多い女性 15-19 歳では 115 人の人が「よく利用する」と回答する一方、もっとも少ない男女 60 歳以上では 11 人で、10 倍近い差が見られていた。新聞の場合とちょうど逆の回答比率であった。

表 4-9 SNS (LINE, Twitter, Facebook など) についての男女・年代差

	(上段:度数、下段:調整済み残差)				合計
	まったく利用していない	あまり利用していない	たまに利用する	よく利用する	
女性/15-19才	7 -7.4	8 -4.5	25 -1.8	115 12.8	155
女性/20-39才	21 -4.8	26 -0.5	44 2.2	64 3.3	155
女性/40-59才	51 0.8	26 -0.5	37 0.7	41 -1.1	155
女性/60才以上	88 7.8	29 0.1	27 -1.4	11 -6.7	155
男性/15-19才	15 -5.9	28 -0.1	41 1.6	71 4.6	155
男性/20-39才	38 -1.6	36 1.7	46 2.6	35 -2.2	155
男性/40-59才	59 2.3	46 3.9	25 -1.8	25 -4.0	155
男性/60才以上	93 8.7	28 -0.1	23 -2.2	11 -6.7	155
合計	372	227	268	373	1240

太字は $p<.001$ で有意に多い回答。太字斜字は $p<.001$ で有意に少ない回答。

$\chi^2(21)=392.21, p<.001$

〈考察〉

(1) 放送法の知識について

放送法の知識に関しては、すべての項目において60歳以上の男性が「知っている」「よく知っている」と回答する傾向があり、この年代の男性の放送に対する知識の幅広さ、深さが伺えた。他方、15-19歳の女性は、「もっとも知らない」「あまり知らない」という回答が多く、テレビに対する関心の低さを反映した回答となっていた。全体的に、男女とも、年代が高い方が「知っている」と答える傾向があったが、この点については、年代が高い人ほど「テレビに関する知識は一般常識」「テレビについて知らないことは恥ずかしいこと」と考え、「知らない」と答えることに躊躇した可能性もあると思われる。それは、政治と関連する話題に無知であることを強く忌避する、男性において顕著であったと予想される。逆に、10代の人にとっては、もはやテレビは特別なものではないため、テレビに関して「知らない」と回答することに何らためらいがなかったのではないかと考えられる。そのため、実際以上に、「知っている」「知らない」の回答に性別・年代差が生じた可能性は否めない。

その分を差し引いたとしても、性別、年代により放送法や放送制度に対する知識に大きな開きが見られていることは事実であり、これは、繰り返しになるが、テレビの相対的な地位の変化の反映といってよいだろう。特に、若い女性は、すべての情報をスマートフォンによるインターネットに強く依存しており、テレビ自体を必要としていない状況であるといっても過言ではない。そのような中では、テレビがどのような制度で運営されているかに、まったく興味がなくても不思議ではないだろう。しかしながら、若い年代において、そのような無関心が、近い将来、テレビのみならず報道全体のあり方を揺るがすことになりかねない、

という想像力までも奪われているのではないかと、と危惧の念を抱かされる結果ともいえよう。

(2) テレビ報道の公平・公正性に関する意識について

テレビ報道において、どうあることが公平であるかについて問う設問（4問）においては、男性の方が、「政治的に公平な報道」はそれぞれの立場の意見を同じ時間ずつ放送し、さまざまな立場の意見をできるだけとりあげ、国会議員の議席の比率や世論調査の比率に合わせて放送する時間を配分することではない、と回答する傾向が見られた。この傾向は、特に60歳以上男性において顕著であった。20-39歳の女性において、「それぞれの立場の意見を同じ時間ずつ放送すること」ではないと回答する傾向が見られていたが、この点は、その他の調査の結果と照らし合わせても、この年代の女性全般の傾向であるのか、今回の調査の回答者に特有の現象なのか、判断がつかない。しかし、これがこの年代の女性全般の傾向であるとするならば、ライフステージにおいて男性以上に多様な道筋がありうるこの年代の女性が、あまりに多くの価値観を示されることへとまどいを表明している、と解釈することも可能であろう。

報道の公平さについては、15-19歳男性の意見の二極化が目立っていた。この年代の男性でインターネットの利用頻度が高い人は、インターネットにおいて自身と同様の意見に数多く触れる一方で、オフラインでの異質な他者との交流が乏しく、意見が極性化している可能性がしばしば指摘されている。今回の調査でも、そのような傾向がみとれる。この点は、女性の若年層とは違った特徴が見られており、この年代が30代、40代と成長し、社会の中心となる年代になった時、報道に対してどのような認識をするようになるのか、注目していく必要があると思われる。

次に、「報道に求められる」ものを問う設問（4問）では、全体的には「表面に出にくい意見や事柄をとりあげて知らせる」ことを求める人が多く、多数派が支持する意見や事柄を中心に上げることや、問題点を重点的に取り上げ批判すること、と回答する人は少なかった。そして、政府による公式発表に忠実に報道することを求める人は、半々程度であった。ここからは、テレビニュースにおける報道には、「事実確認」と「知らないことを知らせてくれる」という2点が求められているのではないかと考えられる。現在、さまざまな情報がインターネット上で入手できるが、その中には真偽が明らかでない情報も数多く存在する。そのような情報が事実であるかどうかを確かめるのに、テレビという存在がいまだに欠かせないのではないと思われる。さらに、自分の興味関心のある問題は、インターネットで深掘りしていけばよいという考えが人々の間で強まり、テレビには自分では積極的に収集しにいかないような数多くの幅広い内容をとりあげてくれることを求めている姿もみとれる。

ただし、この報道に求めるものも、男性60歳以上と、男性15-19歳の人々は、全体的な傾向とやや一線を画していた。男性60歳以上の人々は、テレビの報道に対してより一層強

い批判精神を求め、また、男性 15-19 歳においては、報道に求めるものが公平性と同様、二極化している傾向が見られた。これもまた、これらの年代における情報行動および政治に対する態度を反映したものとみることができだろう。

(3) 報道における人権配慮に関する意識について

テレビの報道の人権に対する配慮については、若干「配慮が足りない」という方向に回答が偏っており、それは性別、年代によって大きく変わるものではなかった。個々に見てみると、女性差別については、全体的に見れば差別的印象を受けない、という回答が多数派であるものの、男女ともにもっとも若い年代が、少数ながら「差別的」という印象を抱いており、この点は興味深いといえる。昔のテレビ番組では、女性差別的な表現を含んだものが現在よりずっと多かったため、年代の高い人々にとっては、現在のテレビ番組は、昔に比べたら女性差別的でないと感じている可能性がある。むしろ、いまのテレビ環境を当たり前とする若年層の方が、比べるべき昔の経験がないため、差別の姿が鮮明に見て取れているのかもしれない。それは、性的マイノリティに対しても同様で、全体的に若年層のほうが「配慮が足りない」と回答する傾向が見られている（男性 15-19 歳においては、ここでも二極化が見られているが）。近年、オネエタレントの台頭により、性的マイノリティの人々が、バラエティ番組を中心にテレビに登場する頻度が高まっている。若年層の人々は、彼らをテレビで多く見ることで、彼らに興味関心を抱くようになり、さらに報道での人権配慮についても意識するようになったのではないかと考えらえる。

他方、障害者の報道については、若年層のほうが「配慮が足りている」と考える傾向にあり、全体的に見ても、配慮はある程度足りている、という回答であった。人種・民族差別的な印象についても、全体的にあまりそのような印象を受けないという回答が多く、テレビの報道において障害者への配慮や人種・民族差別は強く意識されていない様子が浮き彫りとなった。これは、視聴者側の意識の問題もさることながら、ニュースにおいて、障害者や海外ニュース、国内における人種・民族問題が十分取り上げられていない、という可能性も指摘できる。もちろん、このような話題をまったく取り上げていないわけではないことは承知しているが、テレビ視聴時間が全体的に短くなり、ニュースの視聴も、朝の忙しい時間帯にスマホ片手にさらっと流すように短時間だけ、というのが普通の状況において、このような話題をとりあげたニュースは、十分に視聴者まで届いていないのではないだろうか。

その点、高齢者や子どもといった、自身に身近な話題については、明確に年代の差が見られた。高齢者は、高齢者に対する配慮が足りてないとする傾向にあり、これは女性においてより顕著であった。この点は、高齢の男性は、報道において権力を持つ者として描かれることもある一方、高齢の女性は、年老いた弱者としてのみ描かれるという傾向と関連が深いのではないかとと思われる。子どもについては、わずかながら若年層の方が、配慮が足りていな

いと回答する傾向があった。これも、高齢者と同様に、自分自身に近い年代に対しての方が、より関心があるためではないかと思われる。また、女性 20-39 歳において「配慮が足りない」と強くそう思う人々が一番多くなっていたが、これは、小さい子どもを育てている年代であり、子どもの人権に対して敏感になっている人が多いこととも関連していると思われる。

(4) ニュースの情報源としてのメディア利用について

ニュース源としてのメディア利用は、これまでの多くのメディア利用に関する調査結果が示すように、全体的に見ると、高齢者において新聞、テレビの利用が多く、若年層においてインターネット利用が多いという結果であった。個々に見てみると、NHK のニュースは、年代が上がるにつれ直線的に「よく利用する」人が多くなっていた。それに対し、民放のニュースは、20-39 歳の男性で若干視聴者が少ないものの、全体的に大きな差はなく、若年層においてもニュース源としてよく利用されていることが示された。海外のニュース専門チャンネルの利用は非常に少なく、ラジオよりもよく利用する人が少ない状況であった。その中でも、60 歳以上の男性は、ラジオにも海外ニュースチャンネルにもよく利用していると答える人が多く、この年代のニュースへの興味関心の高さが伺われた。

新聞の利用も、NHK のニュースとパターンがよく似ていたが、より高齢者の側によく利用する人が多いこと、全体的に見ると「まったく利用していない」という回答と「よく利用する」という回答に二極化していることが特徴的であった。テレビは、いまだに皆が少しずつは見るメディアであるが、新聞は読む人と読まない人とははっきりと分かれてしまったメディアであるということが、ここからも推察される。

インターネットも、サイトによって利用のされ方が異なっており、ポータルサイトはどの年代の人も非常によく利用する一方、新聞社や通信社などの公式のサイトは男性の利用者が多く、また、ニュース専門サイトや掲示板は若年男性の利用が多く、SNS は若年女性、特に 15-19 歳女性の利用が多く、40-59 歳男性、60 歳以上の男女の利用が少なくなっていた。ここから、同じインターネットでのニュースといっても、性別、年代によって見ているものがまったく違っている可能性が示唆されており、情報の断絶化が少なからず起きていることが見て取れる。

(5) まとめ

今回の調査から、放送法や日本の放送制度に対する知識、テレビニュースの報道に求めるものや現状の認識が、性別、年代によって異なることが示された。これまでの調査結果と同様の結果を踏襲するものも多かったが、全体として、人々は報道における差別的な表現に対してさほど敏感ではないことや、若年男性のテレビに対する態度の二極化など、興味深い結果も数多く見られた。また、ニュース源として利用するメディアについては、テレビ、新聞、

放送法の知識とテレビ報道の公平性に関する意識の性別・年代差について

ラジオについては、性別、年代ごとのメディア利用の違いについて他多くの調査とほぼ同様の結果が得られたが、インターネットについては、すべての人が使うポータルサイト、年配の男性がよく使う公式サイト、若年層男性がよく使う掲示板系、若年層女性がよく使うSNSと、同じインターネットであっても性別、年代により、より使うサイトやサービスが棲み分けされている姿がはっきりと示された。ここから、政治的に公平・公正である報道のありかたについても、それぞれの性別・年代の人々が、異なる情報に接触した上で、態度を形成している可能性が示唆される。

今後は、政治的に公平・公正な報道とは何か、という問いとともに、人々のニーズにこたえるテレビニュースとはどうあるべきか、テレビニュースによる情報はどのように人々に受容されるのか、人々のテレビニュースに対する態度が、政治的態度や人権意識などの形成や変容にどのように影響しているか、そういった観点からの調査も行っていきたいと考える。

本調査が実施されてから2年後の2018年3月には、安倍政権内での「放送制度改革方針案」に「放送という制度を事実上なくし、インターネット通信の規制と一本化して、ネット動画配信サービスなどと民放テレビ局を同列に扱う」ことが盛り込まれている、との報道がなされた。その後、この報道を契機に、「政権 VS マスメディア」騒動ともいえる放送制度についての議論がなされてきたが、2018年夏頃にはとりあえず現状維持、という方向で落ち着いている（村上，2018）。しかしながら、この一連の議論は、報道機関としてのテレビ、ひいてはマスメディアとしてのテレビメディアの存在意義が問われるものであったことは確かである。歴史的に、公平・公正が制度的に求められてきたテレビニュースの在り方が、根本から揺らぐ可能性が示唆される中、テレビニュースは人々に何をもたらしてきたのか、そして今後何をもたらしうるのか、理解を深めることは急務であると思われる。

引用・参考文献／資料

- 保高隆之・木村義子（2016）。「20代は、テレビのリアルタイム視聴と録画再生、動画視聴をどう使い分けているのか？～視聴行動グループインタビューの結果から～」放送研究と調査 2016年8月号 pp.2-13.
- 舟越雅・星暁子・塚本恭子・村田将来（2015）。「テレビ・ラジオ視聴の現況～2015年6月全国個人視聴率調査から～」放送研究と調査 2015年9月号 pp.64-75.
- 村上圭子（2018）。「これからの“放送”はどこへ向かうのか？Vol.2～規制改革推進会議の議論を経て～〈2018年2月～7月〉」放送研究と調査 2018年10月号 pp.2-29.
- 日本新聞協会 新聞広告アーカイブ 2015年全国メディア接触・評価調査 <http://www.pressnet.or.jp/adarc/data/research/media.html>（2018年10月27日最終確認）
- 総務大臣辞任を 日本ジャーナリスト会議が声明 Economic News 2016年2月13日 <http://economic.jp/?p=58526>（2018年10月27日最終確認）
- 総務省平成27年度情報通信白書 PDF版 <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/index.html>（2018年10月27日最終確認）

特集ワイド 高市氏の「停波」発言 ホントの怖さ 毎日新聞 2016年2月18日 東京夕刊
<http://mainichi.jp/articles/20160218/dde/012/010/060000c> (2018年10月27日最終確認)

東京弁護士会 高市早苗総務大臣の「放送法違反による電波停止命令を是認する発言」に抗議し、
その撤回を求めると共に、政府に対し報道・表現の自由への干渉・介入を行わないよう求める
会長声明 2016年2月16日 <http://www.toben.or.jp/message/seimei/post-425.html> (2018
年10月27日最終確認)

【全文】高市早苗氏「電波の停止がないとは断言できない」 放送局への行政指導の可能性を示唆
2016年2月8日衆議院予算委員会 logmi 世界を書き起こすメディア <http://logmi.jp/125281>
(2018年10月27日最終確認)

謝 辞

本研究は、武蔵メディアと社会研究会より助成を受けて実施されたものである。ここに記して、
感謝の意を表したい。